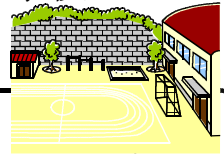


明倫の風

明倫小 校長室だより 第2号
平成28年6月9日(木)発行
校長 椿 義 憲

明倫小で学んでいるという自覚と誇りをもって

これは、今から53年前の6年生の作文です。明倫小学校のことを「日本一の学校」と書いています。



ぼくたちの学校明倫

明倫小学校といえば、おとなも子どもも、日本一の学校のように思っている。第一、学校がすばらしく大きく（※当時、児童数は2,177人）、ちよっと萩付近では見られない。山口県には、明倫と同じくらいの学校が、まだあるそうである。しかし、日本一のわけは、学校の大きさではなく、学校の歴史である。

校庭には、何百年もたった松の大きが、今も青々としげっている。正門はお城のようなかたちをしている。学校の中には昔の建物が、たくさん残っている。「明倫」は毛利氏がつくった藩の学校で、それがずっと続いているのだそうである。（途中略）

先生の話では、この明倫館では明治時代のえらい人がたくさん勉強した。萩付近の人だけでなく、日本全国から集まって来た。土佐の坂本竜馬もその一人である。郷土の偉人、吉田松陰先生も、ここで兵学を教えられたことがあり、今も講学の碑が建っている。（途中略）昔、剣道や柔道の道場であった有備館、水練池、孔子や孟子をおまつりした小さな建物の聖賢堂もある。

先生の話聞いて、ぼくは、あらためて自分の学校を見なおした。（途中略）ぼくは、こんな伝統のある明倫小学校で勉強しているのだから、ほこりをもって、明倫の伝統をよごさないようにしようと決心した。

旧明倫小学校も、新しい明倫小学校も、藩校（藩の学校）明倫館があった場所に建っています。そして、今でも明倫小学校では明倫館の教育の考え方を大切にしています。

また、松陰先生のことばの朗唱をとおして、松陰先生の教えを大切にしています。これらは、ほかの学校ではない明倫小学校の伝統です。

さらに、すばらしい先生方に、素敵な友達がたくさんいます。そして、その多くの友達と一生懸命に学んでいます。

改めて、皆さんには、歴史と伝統ある明倫小学校で学んでいるという自覚と誇りをもってほしいと思います。